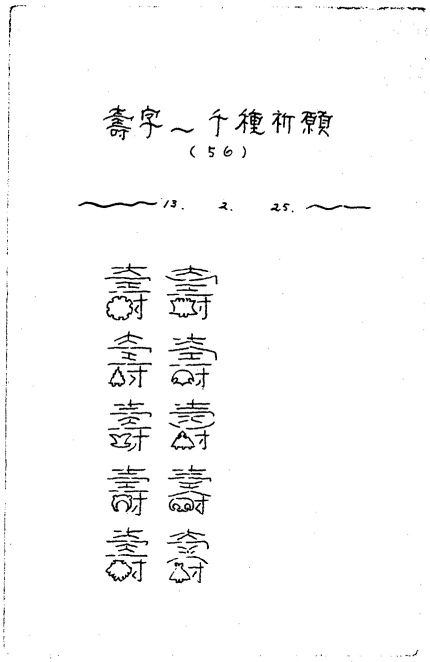
で止めたのでした。このお手紙の中に「華文字」ということばが書いてあったので、その後はこんなのを華文字というようにしていたのでした。その後だいぶ日がたった後でした。今度は「寿字一千種祈願」としてこれまた手紙の内容を百日に割り、一日一語ずつ、そして「寿」という字を次々変え、一日十種ずつ、百日、一千種書いて差し上げたのでした。「寿」という字を一千字書くのではなく、模様を変えて一千種書くのです。この時は最後までお受け取りいただいたのでした。

最初の時いただいたお手紙に「華文字」としてあったので、華文字という言葉を使っていたのですが、そのお手紙を両洋中学の父兄会の役員をしておられた中村さんという人にあげたのでした。清浦伯といえば陛下のご諮問機関の枢密院の議長、総理大臣をなさった立派なお方ですから、お書きになったものはとても貴重なものでした。中村さんにお目にかけると早速、ほしいといわれ、私はまたいつでもお書きいただけると思い、何気なく差し上げたのでした。しかし、「華文字」と書いてあるのでその後ずっとこのお手紙がどこにいったか、もう無くなってしまっているだろうと思っていたのでした。中村さんはその後両洋中学の近所におられたのがどこかに転居さ